

結びつけるものとして浄土（絶対性）が意義をもつものであり、この浄土は凡夫の願往生心の対象となるものである。

このように絶対的对象（浄土）を対象化するということは、大乘仏教の思想に於てはその論理構造は独自の形態をもつものであり、而も、限界のある人間（凡夫）を限りなく救済するという大乘仏教の完成されたすがたを見ることが出来るのである。

かくして浄土は現実世界を超越し、真実（無為涅槃——本質）と願心（如来の大悲と衆生の願往生心）とが相即する信仰の世界で、信仰者が常に生きている世界であるといえる。

「觀經に於ける三心釈の 史的研究」

田 原 正 英

三心とは 一般仏教では十信成就の 薩の発す所の三種の心を云う 浄土教に於ては 浄土往生のために起すべき三種の心を云う。これらの三心は各經典に説かれているけれどその代表的なものとして 一般經典には 大乘起信論 維摩經 浄土教では觀無量壽經にそれぞれ三心が説かれている。

大乘起信論に於ては

復次 信成就発心者 発何等心 略説有三种
一者直心 正念真如法故 二者 深心樂集

一切諸善行故 三者 大悲心 欲拔一切衆生故

維摩經に於ても

当知直心是菩薩淨土 菩薩成仏時不詔衆生
來生其國 深心是菩薩淨土 菩薩成仏時具
足切徳衆生來生其國 菩提心是菩薩淨土
菩薩成仏時大乘衆生來生其國
又淨土教では觀無量壽經に三心を明し

若有衆生 願生彼國 發三種心 即得往生
何等爲三 一者至誠心 二者深心 三者廻
向發願心 具三心 必生彼國

大乘起信論及び維摩經等の三心 直心 深心 大悲心
にしても 淨土教觀經の三心にしても その根本は心の
持方を重要視していることが明きらかに理解できる。

直心は質直で偽らざる心であり 直心とは質直にして
詭うことのない心 純真にして正直な心を 云う。 至
誠心にしても 眞実なる心を云うのであつてみれば 両
者とも 純眞な心を持つことによつて 清淨な淨土に生
まれること示している 深心にしても又同じで仏の教え

を信じてることである 大悲心も又觀經の三心の廻向發願
心と同じで 仏を廻向することによりその功德により仏
の慈悲によつて往生できるようになることである これ
によつて 大乘起信論 維摩經の三心は 菩薩の發す心
であり 淨土教では 我々凡夫が發す所の心であること
は區別できる ただ名異同意であることは明確な所であ
る 仏に帰依するには眞実なる心を持たねばならないと
している

次に中国淨土教に於てはこの觀經及び維摩經大乘起信
論等を註釈書の内に引用している中国淨土教は 数多く
の諸師が現われているその名を上げるならば

慧遠 吉蔵 智顗 曇鸞 道綽 道闍 迦才 普導
龍興 懷感 法聰 知礼 元照等である

慧遠は觀經 に修心往生において 三心とは至誠心
深心 廻向發願心を云う 三心を修して往生するものを
云うのである 慧遠は三心は上品上生の人のみが發すべ
き心としたからである 又吉蔵 智顗 の両師は、菩提
心を業主となし 淨土往生にはこの菩提心を必須条件と
している

善導に於ては 前述の諸師の解釈法とは異なつて凡夫

が起す三心としたことによつて 曇鸞の三不三信の説は作願及び廻向を往生の要とみとめられた 又慧遠は三心は上品上生の人の発す心としている 善導はこの三心を往生の正因として 西方を願う我々一般行者が必ず発さねばならないとして 一つでも欠いては往生できないと強調している 三心を分解すれば 至誠心とは真実心のことで即ち虚仮不実の心を起さずに心に礼拝等の身口意三業の行を行なわねばならぬとしている 身業に彼の仏を礼拝し 口業に彼の仏を称揚し 意業に彼の仏を専念觀察する 三業を起すには必ず須く真実なることが至誠心である

深心とは善導は深く信ずる心なりと解され信心に二種あり これを信機 信法である 機を信じ 法を信ずることである

往生礼讃 信知自身是具足煩惱凡夫 善根薄
少流転三界不出火宅

散善義には

自身是現罪惡生死凡夫 臍劫已來常流転 無有

出離之縁

これは深く自己の身分を省りみて現に自分は罪惡生死の凡夫であると云うことを自覺して 救われようと願う心は 何にによつても仏の本願によつて救われるのであるから仏の教えを信じ疑う心を持つてはならぬとして特に深心を重視している 廻向発願心とは所作の善根を廻向して往生を願求する心を云うのであつてこの廻向心に二種あり 往相 還相をあげている 往相の廻向は浄土に往生せんがためのその善根を廻向することであり 還相廻向とは浄土に生まれた後神通をえて沙婆世界に回入して衆生を教化して同じく仏道に回わしめるのを云う 善導は觀經疏に三心についてくわしく述べられている 特に善導は九品の人のすべてが発す所の心としていることから他の諸師とは解釈が異なつている

法然も善導の觀經疏によつて立教開宗をされたのである 三心は 前述したように觀經にその源泉をもち 善導によつて深い宗教體驗を基底として註釈されたのを法然は念仏者には必ずもたねばならぬ宗教意識である この宗教意識こそ 三心である 法然の三心觀は法語消息

文について示されている。しかし、いづれの文にも善導釈が用いられているがその解釈法は相異する所ないといつても過言ではない。ただ凡夫が浄土往生を願うには自己の罪惡生死の凡夫であることを自覺して同時に偉大なる仏の願力によつて仏の名な称えて心を真実心にして、仏の願力に乗じて往生を得ることを確信して、三心を具足することである。この三心を具足することが往生できる最大の条件であつたのである。これによつて三心の重要性が強調されてくる。――完――

三心の研究

鳥山道彦

三心の研究

浄土所依の經典である三部經、觀經の上輩觀の中に

「若有衆生願生彼國者發三種心即便往生何等爲三一者至誠心二者深心三者廻向發願心具三心者必生彼國」

此の三者を具す者は、必ず往生する事が出来る。これが三心の根本精神である。

仏教大學研究紀要三十四号高島寛我先生の論文によれば、選択集に云く

「此三心者總而言之通諸行法別而言之在往生行今舉通攝別意即周矣、行者能用心勿敢忽緒

と決疑鈔に之を受けて云く

「義推正直、信心回向可通二門其理必然然則三心通聖道文往往是多、維摩起信所明三心与今三心同異思之」

と今浄土門に於ける三心即ち至誠心、深心廻向發願心は聖道門に於ける諸の行法に通ずることはその理必然である。

維摩詰所說經仏國品にては

「寶積、当知直心是菩薩淨土、菩薩成仏時不詔衆生來生其國、深心是菩薩淨土、菩薩成仏時具足功德衆生來生其國、菩提心是菩薩淨土、菩薩成仏時大乘衆生來生其